

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
(1) 世界史へのいざない	<p>自然環境と歴史，日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる適切な主題を設定し考察する活動を通して，世界史学習の基本的機能に触れさせるとともに，地理と歴史への関心を高め，世界史学習の意義に気付かせる。</p> <p>ア 自然環境と歴史</p> <p>歴史の舞台としての自然環境について，河川，海洋，草原，オアシス，森林などから適切な事例を取り上げ，地図や写真などを読み取る活動を通して，自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>日本列島の中に見られる世界との関係や交流について，人，もの，技術，文化，宗教，生活などから適切な事例を取り上げ，年表や地図などに表す活動を通して，日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p> <p>近現代世界を理解するための前提として，ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに，16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に，世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際，世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。</p>	<p>世界史における自然環境の変化とそれが与えた影響について概説して理解する。また，ユーラシア大陸における諸文明の交流から，両者のつながりと与えた影響を理解する。また，大陸からの影響を中心に日本社会の形成についても簡単に理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図版や資料集など様々なデータを利用して，それが人間の活動にどのような影響を与え，どのような結果をもたらしたのかを簡単に分析することができるようになる。また，分析を通じて得た知識を体系的なものとして修得することができる。 ・図版や資料集，地図などを利用して世界から日本列島へもたらされた文化を，白地図を用いて身につけることができる。また，年号について理解し，世界史を学ぶ際の基礎的な尺度として，西暦等を用いることができる。 <p>中国の古代文明を中心に4大文明について白地図等を用いながら，その概要を系統的に理解する。また，中国史を中心に，遊牧諸民族との交流も交えながら，西アジア世界の発展を理解する。その際にこれらの王朝が日本に与えた影響についても系統的に身につける。</p> <p>16世紀以降の歴史に関しては，大航海時代，宗教改革，科学革命の世紀等の重要な事項を系統的に理解することができるようになる。</p>
(2) 世界の一体化と日	<p>ア ユーラシアの諸文明</p> <p>自然環境，生活，宗教などに着目させながら，東アジア，南アジア，西アジア，ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海，陸における交流を概観させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの中国古代文明を中心に，その黎明期から元代前までの歴史を，周辺の遊牧民族とのかかわりも含めて理解する。 ・西アジアの歴史について古代オリエントからイスラームの発展等々を系統的に理解する。また，イ

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>本</p> <p>イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ，アメリカ，アジアの接触と交流，アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制，大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い，16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立，フランス革命とアメリカ諸国の独立，自由主義と国民主義の進展を扱い，ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，その中での日本の動向を扱い，19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>(3) 地球社会と日本 地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ，人類の課題について歴史的観点から考察させる。その際，世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。</p> <p>ア 急変する人類社会</p>	<p>スラムムに関してはその文化的な特徴などとともに，理解をかめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸地域世界の交流について，シルクロードや海の道を通じた交易の歴史を系統的に理解し，それが日本へ与えた影響を含めて概観することができる。 ・大航海時代の背景を総括的に理解し，その中で活躍した国や人物を系統的に理解する。 ・三角貿易や帝国主義の進展等の基礎的な知識を体系的に理解し，奴隷貿易の悲惨さを認識することができる。 ・明，清を中心とした東アジアの歴史について，周辺諸民族とのかかわり等とともに系統的に理解する。 ・科学革命などとともに産業革命の経過を概括的に理解し，資本主義社会の進展とそれがもたらした社会的歪について系統的に認識することができる。 ・アメリカ独立革命の経過と歴史的意義について系統的に理解し，それがその後のフランス革命をはじめとするヨーロッパの革命に影響した過程を考察することができる。 ・三角貿易や植民地といった用語について正しく理解することができる。 <p>第1次世界大戦と第2次世界大戦を中心に学習し，戦争のもたらした影響を，前後の歴史とともに系統的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展や資本主義の進展について系統的 	

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>科学技術の発達，企業や国家の巨大化，公教育の普及と国民統合，国際的な移民の増加，マスメディアの発達，社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ，19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について，人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和</p> <p>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応，二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格，それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ，19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向，アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ，核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化，冷戦の終結，地域統合の進展，知識基盤社会への移行，地域紛争の頻発，環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ，地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p> <p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ，歴史的観点から資料を活用して探究し，その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して，世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>に理解し，大衆社会の出現等の基本的事項を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義の概要を理解し，アジアやアフリカ諸国の植民地化の状況を系統的に理解する。さらに，第1次及び第2次世界大戦にいたる歴史的背景を認識し，その経過や結果を系統的に理解する。 ・第1次世界大戦後の世界の変容やヒトラー，ナチ政権の拡大等を中心に系統的に理解する。そして，第2次世界大戦勃発の背景について十分に理解する。 ・第2次大戦後の世界の状況について民族運動を中心に系統的に理解する。 ・戦後世界の進展について冷戦を中心に系統的かつ簡潔に理解する。 ・現代的課題について環境や安全保障の面から，今後の課題について簡潔に理解し，自分なりの考察ができるようになる。

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
(1) 私たちの時代と歴史	<p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p>	<p>身近な社会的事象や、地域の事象、現代の課題などを追究し、近現代の歴史的事象と現代の結びつきに気づくことで、自らが歴史の当事者であることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「原始」から「現代」までの時代区分や時代名を知る。 ・西暦・元号・世紀という表現方法を知る。 ・文字資料のほかに、どのような資料が歴史を知る手掛かりになるか考えることができる。 <p>「近代への胎動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米で資本主社会を特質とする近代国家が成立し、植民地を求めてアジアに進出したことを知る。
(2) 近代の日本と世界	<p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p> <p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p> <p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国</p>	<p>「明治維新」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペリーの来航により開国し日米修好通商条約が締結されたが、その内容が不平等なものであったことを知る。 ・開国後の国内に、尊王攘夷派と公武合体派の対立があったことを学び、攘夷運動の挫折の結果から倒幕への流れになったことを知る。 <p>「近代国家の確立」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治新政府が富国強兵をスローガンとして、中央集権化を図るための政策を行ったことを知る。 ・明治維新の諸改革による士族層の没落が、士族反乱や自由民権運動につながったことを理解する。 <p>「対外関係の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府が不平等条約改正に至った、国内的要因と国際的背景を知る。 ・日清・日露戦争の背景と経過理解し、日露戦争の勝利が非植民地国家に与えた影響を知る。 <p>「政党政治の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内で、民衆運動が政治を動かしたことを理解する。 <p>「近代産業の発展と社会運動の展開」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業革命が、政府の主導により始められ、製糸・紡績などの軽工業から技術革新が始まったことを知る。

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>内の経済・社会の動向，アジア近隣諸国との関係に着目して，二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p> <p>ウ 近代の追究 近代における政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から，産業と生活，国際情勢と国民，地域社会の変化などについて，具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して，歴史的な見方や考え方を育てる。 第二次世界大戦後の政治や経済，国際環境，国民生活や文化の動向について，現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会 占領政策と諸改革，新憲法の成立，平和条約と独立，国際交流や国際貢献の拡大などに着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>(3) 現代の日本と世界</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発達，経済の国際化，生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>ウ 現代からの探究 現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から，近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工業化の発展により，労働問題や公害などさまざまな社会問題が発生したことを理解する。 <p>「国民生活の変化と文化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業化の発展など，産業構造の変化により農村から都市部への大規模な人口移動が起きたことを知る。 明治・大正時代移行期の国民生活の変化を知る。 <p>「第一次世界大戦と日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦を契機として，日本が国際社会での地位を高めたことを知る。 大戦景気と社会・産業構造の変化について知る。 <p>「第二次世界大戦と日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> 恐慌の発生による社会不安の増大と，軍部の台頭の関連を理解する。 アメリカによる禁油政策を背景に，日本が南進を図り，連合国と開戦した経緯を知る。 第二次世界大戦の経過と，日本の敗戦について知る。 <p>「日本の再出発」</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦後，日本は連合国軍の占領下にあったことを知る。 GHQによる五大改革の概要を知る。 GHQ草案をもとに新たに制定された日本国憲法について，大日本国憲法と比較する。 西側陣営と東側陣営の対立（冷戦）が始まり，世界が東西対立（冷戦）に巻き込まれたことを知る。 サンフランシスコ平和条約により，日本が独立を回復したことを知る。 <p>「独立後の政治と対外関係」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は軍事面でアメリカに依存しつつ，高度経済成長を成し遂げて経済大国になったことを知る。 高度経済成長により社会構造や家族の形態が変化したことや，公害等の社会問題の発生を知る。

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>「経済の発展と国民生活の変化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用状況の変化と格差社会の出現について知る。 ・国際社会の中で、日本が経済大国として様々な分野で期待されていることを理解する。

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察</p>	<p>世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 地球儀や地図からとらえる現代世界 地球儀と世界地図との比較、様々な世界地図の読図などを通して、地理的技能を身に付けさせるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国家間の結び付きなどについてとらえさせる。</p> <p>イ 世界の生活・文化の多様性 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連付けてとらえ、その多様性について理解させるとともに、異文化を理解し尊重することの重要性について考察させる。</p> <p>ウ 地球的課題の地理的考察 環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視野からとらえ、地球的課題は地域を越えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることについて考察させる。</p> <p>生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>現代世界の地理的認識を深めさせるにあたって、地理的認識の入り口となる、基本的知識すなわち基本的な地名とその位置（例：世界全図の中で、ヨーロッパという地域はどこにあるのか、ヨーロッパの中で、フランスはどこで、ドイツはどこか、などなど）の学習を徹底的に行う。</p> <p>左記、世界地図の読図、および地理的技能を身につけるための初歩として、白地図プリントと「色ペン塗り絵」の学習を繰り返す。すなわち、地中海を青く塗る。チベット高原を黄土色に塗る、等々。</p> <p>世界諸地域の生活・文化の多様性について理解させる初歩段階として、DVD 視聴覚教材（TV 海外取材番組の録画）を多用する。そして、この学習を異文化理解につなげる。</p> <p>これらの課題の考察についても、DVD 視聴覚教材（TV 海外取材番組の録画）を多用する。そして、この学習を地球的課題の理解につなげる。</p> <p>歴史的な背景については、2 学年にて同時に履修中の「世界史 A」の学習内容を参考にさせなければならないが、「地理 A」においても、随時補講する。</p>
<p>(2) 生活圏の諸課題の地理的</p>	<p>ア 日常生活と結び付いた地図 身の回りにある様々な地図の収集や地形図の読図、目的や用途に適した地図の作成などを通して、地理的技能を身に付けさせる。</p> <p>イ 自然環境と防災 我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解させるとともに、国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性を踏まえた対応が</p>	<p>前述の「色ペン塗り絵」を、25000分の1地形図や東京都道路地図などの「塗り絵」などにも展開する。</p> <p>地震・火山関連の災害に関しては、日本列島が環太平洋造山帯上に位置することを踏まえ、プレートテ</p>

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
考 察	<p>大切であることなどについて考察させる。</p> <p>ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査</p> <p>生活圏の地理的な諸課題を地域調査やその結果の地図化などによってとらえ、その解決に向けた取組などについて探究する活動を通して、日常生活と結び付いた地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けさせる。</p>	<p>クトニクスにも簡単に触れつつ、学習する。</p> <p>「色ペン塗り絵」学習は、東京都内道路地図、首都圏鐵道地図、東京メトロ路線図、大田区内地図、などに関しても行われる。</p>

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(1) 私たちの生きる社会</p>	<p>現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。</p> <p>現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。</p>	<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを知る。例えば、生命・情報・環境の問題では、様々な対立点があることを理解する。</p>
<p>(2) 現代社会と人間としての在り方生き方</p>	<p>ア 青年期と自己の形成</p> <p>生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期とは、社会とのかかわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていくなど、自己を確立する基礎を培う重要な時期であることを理解する。 ・青年期の課題として、自分らしい生き方・価値観を見つけ、「自分とは何者であるか」を自覚するアイデンティティ（自我同一性）の確立があることを知る。また、自己実現につながる将来の職業生活について考察し、よりよく生きることの大切さを理解する。 ・青年期の自己形成を図る上で、社会とのかかわりが重要であることを知るとともに、社会参加が自己実現の可能性を高めることについて、具体的事例などを踏まえて理解する。 ・我が国の伝統や文化が、私たちの日常生活に様々な影響を与えていることを理解し、現代社会における伝統や文化の継承の重要性について知る。 ・日本国憲法が保障する基本的人権には、自由権、社会権、平等権などがあり、さらに自由権の内容として、人身の自由、精神の自由、経済活動の自由があることを理解する。 ・国民主権が民主政治の根幹であることを知り、現在の我が国の選挙制度の仕組みについて理解する。 ・我が国における平和主義の考え方について、日本国憲法前文や第9条を踏まえて理解する。 ・日本国憲法の条文を踏まえて、天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であることや天皇が行う国事行為について理解する。 ・日本の政治制度の基本的な仕組みについて理解する

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <p>個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</p> <p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <p>現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。</p>	<p>とともに、内閣が国会に対して連帯して責任を負う議院内閣制を採用していることなどについて説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主社会における政治参加の重要性について理解し、新聞やニュースなどを通じて、現実の政治の動きについて関心を深める。 ・日本国憲法第13条の「個人の尊重」について正しく理解し、個人の生命・自由及び幸福追求の権利は最大限尊重されなければならないことを知る。 ・法や社会規範が、私たちの生活のあらゆる領域にかかわっており、私たちの権利を守っていることを理解する。 ・司法制度の基本的な仕組みについて理解し、我が国では、同じ事件について三回まで裁判を受けることができる三審制を採用していることについて説明できる。また、司法制度改革の一環として裁判員制度が導入されたことを理解する。 ・生命がかげがえのないものであることについて理解し、生命尊重の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが重要であることを知る。 ・社会生活を営む上で、自由・権利と責任・義務とは切り離すことのできない関係にあることを理解する。 ・人間は尊厳をもつかげがえのない人格として平等であり、他の人々の願いを自分の場合と同様に尊重することが必要であることを知る。 ・現代の経済社会の変容について、産業構造や人々のライフスタイルの変化に着目して説明できる。 ・市場が需要と供給をつなぐ取引の場であり、需要と供給の均衡をもたらす「価格の自動調整機能」があることを、A. スミスの「見えざる手」という言葉を使用して説明できる。 ・財政とは、政府による経済活動であり、所得税や消費税といった租税を財源として成り立ち、社会保障費や地方交付税交付金などの歳出がまかなわれていることを理解する。 ・銀行などの金融機関が資金の融通を行うことで経済が成り立っていることや、日本銀行が発券銀行、銀

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <p>(3) グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p> <p>持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。</p>	<p>行の銀行、政府の銀行の三つの働きをもつことを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の我が国において実現された高度経済成長について理解し、経済成長が社会全体に与えた影響について説明できる。 ・日本国憲法に規定された勤労の義務や労働基本権について理解するとともに、非正規雇用の増加などに代表される現実の雇用・労働問題について知る。 ・病気やけが、加齢などによる生活不安、失業・労働災害・事故などに対して、国の責任として生活の保障する社会保障制度の意義や役割を理解する。中でも医療保険と年金保険については、それぞれ国民皆保険、国民皆年金が整備されていることを理解する。 ・個人や企業が経済活動を行う上で、法的責任と社会的責任を担っていることや、私たち個人が社会生活を営むにあたり、環境保全や社会貢献に配慮した行動をとることが重要であることを理解する。 ・現代のグローバル社会は、人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動し、国際的な相互依存関係が深まる中で形成されてきたことを説明できる。 ・人権、国家主権、領土に関する国際法上の規定や、国際平和に向けた各国の協調的な取組が重要であることを知る。特に、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを知る。 ・国際社会における国際法の重要性について知るとともに、国際平和の実現や国際的な人権問題の解決に向けて、国際連合や非政府組織などの果たす役割が増大していることを理解する。 ・人種や民族の違いが、宗教や言語などの問題と結び付いて地域紛争を引き起こすことがあることを知る。また、グローバル化の進展とともに、文化や宗教などの違いを越えて、人類が共生に向けた努力を行うことが重要であることを理解する。 ・核兵器をめぐる現状と世界の軍縮への取組について理解するとともに、国際連合をはじめとする国際機関や非政府組織などが軍縮に取り組んでいることを知る。

学習指導要領	都立蒲田高校 学カスタンダード
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の我が国の安全保障について理解するとともに、国際社会の平和と安全の維持において自衛隊が果たしている役割について知る。 ・世界的な規模で自由な経済活動が拡大していることや、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることを理解する。 ・グローバル化の進展とともに、国際的な経済の相互依存関係が深まっていることを理解し、欧州連合などの事例を踏まえて地域的経済統合の動きについて知る。 ・南北問題や南南問題などの国際的な経済問題の解決のためには、国際協調が必要であることを認識し、国際機関や非政府組織などの果たす役割の重要性について理解する。 ・持続可能な社会の形成に参画することの重要性について理解し、「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」のいずれかに注目して現代社会の諸課題について考察できる。

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(1) 現代の政治</p> <p>現代の政治</p> <p>ア 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について考察させる。</p> <p>イ 現代の国際政治</p> <p>国際社会の変遷、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握させ、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会契約説について、ホッブズ、ロック、ルソーの特質をとらえ、自然権に基づく国家・政府の在り方は、現代の政治の基盤となっていることなどを理解する。 ・大日本帝国憲法との違いを明確にし、日本国憲法の三大原理を理解する。 ・我が国における三権分立の仕組みを国会、内閣、裁判所の各機関の働きと相互の関係を踏まえて理解する。 ・自由権と社会権の相違を踏まえながら、その成立の背景や具体的な権利の内容について理解する。 ・現代社会における相互の権利や利害対立を調整するための原理として、「公共の福祉」という考え方があることを、現代の社会での事例などを踏まえて理解する。 ・我が国の地方自治制度において、住民自治の実現を図るため、条例の制定・改廃、議会の解散、議員や首長の解職などについて、住民の直接請求権が認められていることを理解する。 ・国際社会について、環境、人権、貿易などの分野で、各国の対立が発生する一方、国際機関やNGOによる問題解決のための取組があることを把握する。 ・国際法上の人権に関する規定を理解するとともに、我が国固有の領土の経緯と我が国の正当な立場を理解する。 ・国際連合の機能とその役割について理解する。 ・我が国の国際貢献活動として、例えば、国際社会の平和と安全を維持するために自衛隊が果たしている役割などについて理解する。 ・冷戦後の国際政治の動向を踏まえて、人類の平和的共存を実現するには、民族対立や国際紛争の背景にある、文化や宗教の多様性について相互理解が不可欠なことを理解する。 ・国際平和の実現や、地球上の貧困や飢餓の撲滅に向けて、我が国をはじめとする先進国が果たすべき役割について確認する。 	

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(2) 現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解させるとともに、その特質を把握させ、経済についての基本的な見方や考え方を身に付けさせる。</p> <p>ア 現代経済の仕組みと特質 経済活動の意義、国内経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。</p> <p>イ 国民経済と国際経済 貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財やサービスを効率的に分配するための仕組みとして、現代における市場経済の存在を理解する。 ・家計、企業、政府の経済的な相互関係が一国の国民経済を構成していることを理解する。 ・貿易や為替など国際経済の動向が国民経済にも影響を与えることを理解する。 ・物価変動によるインフレーションやデフレーションの発生が国民生活に与える影響について、インフレーションは景気の過熱や投資の拡大と結び付き、デフレーションは景気後退や不況と結び付いていることを分析する。 ・財政による景気調整の機能として、増減税、伸縮的な財政政策及び自動安定化装置について理解する。 ・他国や地域によって独自の歴史や文化的背景をもち、それぞれ特徴を有していることについて、我が国と欧米諸国などとの比較を通じて理解する。 ・経済活動と国民福祉との関連について、環境保全よりも経済成長を重視することで、公害が発生し、国民福祉が阻害される場合があることを事例とともに理解する。 ・貿易について、リカードの比較優位説を踏まえて国際分業の利点を理解する。 ・国際収支の内訳や変動相場制の仕組み等について理解する。 ・変動相場制へ移行した国際通貨制度の仕組みについて理解する。 ・地域経済統合について、EUのように政治統合まで志向する地域や、ASEANのように経済統合を目指す地域など、様々な形態があることを考察する。 ・南北問題の原因とその解決策及び南南問題と呼ばれる新たな経済的格差問題について理解する。 ・新興国の発展とその課題について、資源ナショナリズムや国際通貨危機などに関連させて理解する。 	

学習指導要領		都立蒲田高校 学カスタンダード
<p>(3) 現代社会の諸課題</p>	<p>政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。</p> <p>ア 現代日本の政治や経済の諸課題 少子高齢社会と社会保障，地域社会の変貌と住民生活，雇用と労働を巡る問題，産業構造の変化と中小企業，農業と食料問題などについて，政治と経済とを関連させて探究させる。</p> <p>イ 国際社会の政治や経済の諸課題 地球環境と資源・エネルギー問題，国際経済格差の是正と国際協力，人種・民族問題と地域紛争，国際社会における日本の立場と役割などについて，政治と経済とを関連させて探究させる。</p>	<p>・少子高齢社会における社会保障の在り方について，政府による福祉政策を重視する考え方と，国民の自助努力を重視した福祉の考え方とがあり，具体的な事例を通じて，二つの考え方を考察する。</p> <p>・地域社会の特色ある発展を促すには，地方分権を推進するための政策や制度が必要であることを理解する。</p> <p>・雇用と労働問題については，終身雇用制や年功序列型賃金体系などにより雇用の安定を重視する考え方と，規制緩和により労働力を効率的に活用するという考え方があることを最近の労働問題もふまえながら考察する。</p> <p>・産業構造の変化と中小企業については，経済のグローバル化や国際競争の激化，規制緩和の進展などの状況が見られることを考察する。</p> <p>・日本の農業と食料の問題については，農業における生産，流通，貿易を自由化する考え方と，国内農業を保護するための政策を推進する考え方があることを理解する。TPPなども取り上げて考察する。</p> <p>・地球環境と資源・エネルギー問題については，地球環境の保全を優先する考え方，生活水準の向上を目指す経済発展（開発）を優先する考え方とがあることを学習する。</p> <p>・国際経済格差の是正については，先進国や国際機関による経済援助を中心とする考え方と，その反面，発展途上国の自助努力を中心とする考え方があることを理解し，発展途上国の経済的自立と地球の持続可能な発展が重要な課題であることを考察する。</p> <p>・人種・民族問題や地域紛争については，少数民族の分離・独立という考え方と多数民族との共生という主張とがあり，その二つの考え方を吟味しながら，現実の地域紛争等の問題を理解する。</p> <p>・我が国の国際貢献が，従来は資金面での援助や協力が中心であったことを踏まえ，今後は人的貢献にも力を入れる必要があることを理解する。</p>

